

## アジアを学ぶ、アジアで学ぶ

・・・中2地理の授業と高2倫理の授業で

田中裕巳

### 1. はじめに

アジアは多様である。内陸性の民族も、海洋性の民族もいる。イスラム教徒も、仏教徒も、ヒンズー教徒も、そしてキリスト教徒もいる。「アジアを学ぶ」という時、その伝統的な多様性に戸惑う。しかしその多様性こそが「アジアを学ぶ」時の核心であり、多様なものの共存＝“異質の共存”をこそ、「アジアで学ぶ」べきものだと考える。

日本単一民族国家論に対して、日本の先住民としてのアイヌ民族との関係、朝鮮・韓国からのオールド・カマーとの関係、そして東南アジア・南米・中近東などからのニュー・カマーとの関係を考えることの重要性を指摘したい。日本単一民族国家論はこの3つの関係をすべて捨象し、あるいは無視、排除するものでしかない。この視点から、中2の日本地理における授業と高2の倫理における授業を取り上げ、検討してみたい。

### 2. 中2日本地理“九州地方”の導入で

中学の日本地理の教科書では、“身近な地域”のあと、九州地方から北海道地方へ北上する教科書が多い。世界地理先習のカリキュラムでは、九州地方が世界地理学習との重要な接点になると言えよう。もちろん九州地方が日本の諸地域の中で最初に学ばれるからという理由だけからではない。外国との貿易や外国人労働者の分布などで、他地域でも国際化についての学習は行われる。しかしながら、九州地方は、東アジア（中国・朝鮮）からの文化の流入口として、あるいは、八幡製鉄所の建設にみられる明治以降の大陸侵攻への戦略的拠点として、独特の位置を持っている。

93年度に中2の地理を担当した際、次のようなアンケートを試みた。質問は「九州から最も距離的に近い外国を3つあげなさい」という単純なものであったが、結果は興味深いものであった。

○ “近くて、遠い国”の内実 93年6月調査  
九州から最も近い3つの外国は？

附属中学2年生在籍75名

①中国	78	内訳	41	中国
			13	中華人民共和国
			23	台湾

			1	中華民国
②韓国	57	内訳	32	韓国
			23	大韓民国
			1	南朝鮮
			1	朝鮮
				(北朝鮮と対比して使用)
③北朝鮮	56	内訳	25	朝鮮民主主義
				人民共和国
			24	朝鮮
				(うち17は北の意味で使っていることが明瞭)
			7	北朝鮮
④旧ソ連	4	内訳	3	旧ソ連
			1	ロシア
⑤フィリピン、オーストラリア			3	
⑦シンガポール、インド、ベトナム、インドネシア、ソウル、ピョンヤン、オランダ、イタリア			1	

「中国」と答えたものが生徒数（75名）よりも多いのは、「中国」と「台湾」を別に答えたものも「中国」に一括したからである。「韓国」と「朝鮮」と答えている場合は、「朝鮮」は北朝鮮にカウントしたが、「北朝鮮」と「朝鮮」と答えた生徒も1名いて、この場合の「朝鮮」は韓国の中にカウントしている。このような数字が上の表である。

「九州から最も近い外国」を実際に考えてみると、対馬から釜山（韓国）が約50km、与那国島から台湾が100km余り、中国本土へは400km、フィリピンのバタン諸島へも500km足らずである。大城将保は『昭和史の中の沖縄』の中で、次のように書いている。

「コンパスで沖縄を中心にぐるっと円をえがくと、朝鮮半島も中国東部も台湾もフィリピンも、東京と等距離になる。この地政学的な位置と過去の歴史体験を再点検して、東京にかたよった視線を広くアジア全体に向けなおすとき、そこに希望が見えてこないか。」（同上書、P. 70）

九州・福岡から見ても、距離的には東京よりも釜山の方がはるかに近い。そのような地図上の距離的な位置と心理的な位置とはまったくかけ離れている。朝鮮や中国が“近くて遠い国”といわれる所以である。

先の「九州から最も近い外国」という問に戻ってみよう。台湾を中国の属領とすれば、この問に対しては、大韓民国、中国、朝鮮民主主義人民共和国と答えるのが正解といえる。その解答群の中で、台湾を1つの国家（外国）として認識している生徒が23名いること、朝鮮とはすなわち北朝鮮という認識をしている生徒が24名いることなどに注目したい。

対馬から北朝鮮への距離、与那国島からバタン諸島

への距離などを考えれば、フィリピンがもっと多くなっても当然と思われるが、オーストラリアと同数であった(3名)。フィリピンはそれほど感覚的には遠い国ということなのであろう。現在の日本とフィリピンとの関係、ニュー・カマーとしてのフィリピン人の増大、『バナナと日本人』に象徴されるアグリビジネスを介しての結び付き、日系企業の進出、明治以降のダバオ植民地、第2次大戦中の植民地化など、いずれも日本とフィリピンの距離的近さ抜きには説明できないものばかりである。にもかかわらずフィリピンが“感覚的にも遠い国”となってしまうことは、“アジアと日本”の教育がいかに不足しているかの証左であろう。このことを意識して組み立ててみたのが、授業「九州地方とアジアの国々」である。

### 3. 高校《倫理》におけるアジア問題

高等学校学習指導要領「倫理」には、アジアという語は1度も出てこない。アジアの一国としての日本、その課題という認識はない。従って各教科書会社の新課程用の「倫理」の教科書においても、“アジアと日本”ということ意識した教材編成はほとんど見られない。「倫理」の授業を通して、“アジアで学ぶ、アジアを学ぶ”ためには、かなり自主的な教材編成の努力を要求される。

そういう中で、“アジアと日本”を比較的重視した教材選択をしているのが、一橋の『倫理』であろう。一橋『倫理』は、思想(史)学習以外の所では、次のような単元でアジアの問題に触れている。

#### 第Ⅱ章 “現代社会の特質と人間”

12. 国際化の時代 在日外国人の増加の中で、在日朝鮮人の問題

#### 第Ⅲ章 “現代をどう生きるか”

15. 文明の方向を考える ガンディーの思想に大量消費社会への反問を見る

#### 第Ⅴ章 “世界の中の日本人”

46. 戦争への反省を、平和を築く礎とする 強制

### 4. 中学校社会科・地理的分野指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

日時 ○月○日(○曜日) 第○時限

於 中学校○年○組教室

学年 中学校○年○組 ○○名

(男子○名、女子○名)

1. 単元 特色ある九州の位置と地域の発展

(大単元 九州地方)

2. 単元について

(1) 単元の意義

連行、従軍慰安婦問題

47. 過去のあやまちを正す

48. 世界の多様な民族

思想(史)学習の面でも、特に第Ⅳ章“日本人の思想の展開”にユニークな編集がみられる。たとえば、35(節)の“日本人の思想の原質”では、日本文化のふるさととして、①メラネシア系の母系的狩猟民文化、②東南アジア系の母系的焼畑民族の文化、③北方アジア系の父系的畑作・狩猟民文化、④中国江南の水田稲作文化、⑤アジア内陸からの父権的・民族的な騎馬遊牧民族の文化を取り上げ、“重層的な深み”を指摘している。日本文化の重層性、雑種性を証明するにはよいが、生産様式、家族・氏族制まで深入りして行くのは、倫理の授業だけでは手に負えない側面がある。39(節)の“西洋近代思想の受容の光と陰”では、福沢諭吉と中江兆民を対比させているが、中江兆民の『三酔人経綸問答』には触れていない。アジアと日本の関係を“三酔人”にカリカチュア化した兆民の慧眼を学ばせたい。この点を強調して行った授業が、次章の「高等学校・倫理指導案」である。

一橋『倫理』の教科書執筆者の一人である目良誠二郎先生(海城高校)の優れた実践が『歴史地理教育実践選集27 世界の歴史と現代朝鮮』に集録されている。“福沢諭吉の視点から柳宗悦の視点へ……日朝関係史のバクロ型授業を乗り越える試み……”と題して、柳宗悦と浅川巧を取り上げている。「朝鮮を愛し朝鮮人を愛し」、「朝鮮人からも愛された」朝鮮総督府林業試験場技師の浅川巧、その浅川に導かれた柳宗悦の仕事と営為を教えて、生徒たちのアジア観を作り変えている。私の「指導案」は目良先生の実践にはまるでかなわないが、アジアを通して、“異質の共存”の重要性を学ばせようとしたものである。なおこの授業案は名古屋大学の『教育実習の手引』改訂(平成6年度版)のために、昨秋執筆したものである。その後検討してみると若干手を加えたい箇所もあるが今回はそのまま転載した。

九州地方の導入として、朝鮮半島、中国大陸、東南アジアとの距離的な近さを地図の上でとらえさせる。また歴史的な結びつきの強さを仏教の伝来、遣唐使、鎖国中の清・朝鮮との交易などを通して整理する。その上で、フィリピンが意外に近いことにも気付かせる。

九州の国際化の中心としての福岡、北九州工業地帯の歴史と現状の中にも、日本とアジアの関係の変化が影響している点を学ばせたい。

- (2) 系統的にみた位置

前単元で「身近な地域」を学習した。地図の利

用、工業立地や土地利用の変化が経済的な発展と結び付いていることなどを学んでいるが、その地理的な手法を各地域の学習にも生かせるように指導したい。さらに歴史学習の既習事項との結び付きにも配慮したい。

(3) 単元と生徒との関係

九州地方は大半の生徒にとっては居住や旅行の経験も少ない。しかしながら歴史学習においては、吉野ヶ里遺跡、志賀島の「漢倭奴国王」の金印、遣隋使、遣唐使、元寇などの歴史的事項と共に九州地方が記憶されているはずである。既習事項との関連をはかりながら、九州地方とアジアの国々との現代の結びつきも考えさせたい。

3. 目標

- (1) 九州地方と首都東京との距離、九州地方と朝鮮半島、中国大陸、台湾、フィリピンとの距離をコンパスを利用して比較させ、文化的経済的な交流について理解させる。
- (2) 九州地方の工業の歴史の推移について、中国大陸との関係、国内大消費地との距離などの要因を理解させる。

4. 指導計画 (7 時間完了)

- (1) 特色ある九州地方の位置と地域の発展  
..... 2 時間、本時 1 / 2
- (2) 有明海周辺の低地の開発..... 1 時間
- (3) 火山地域に住む人々の暮らし..... 1 時間
- (4) シラス台地の開発と人々の暮らし..... 1 時間
- (5) 暖かい沖縄の人々の暮らし..... 1.5 時間
- (6) 離島の暮らし..... 0.5 時間

5. 本時の指導

- (1) 目標  
九州地方のアジア大陸との距離的な近さをつかませる。それが歴史における九州地方の先進性、中国・朝鮮との交流・交易の深さの原因であることを理解させる。
- (2) 準備  
①教科書『中学生の地理』(帝国書院)  
②地図帳『中学校社会科地図』(帝国書院)  
③コンパス
- (3) 指導過程

段階	指導内容 (板書事項)	指導上の留意点
導入  5分	九州地方の位置 《九州地方から最も近い外国は》  《東京と外国ととっちが近いか》	教科書の福岡を中心とした同心円図の他に、地図を利用して、対馬、沖縄、与那国島などから外国への距離を測らせる。 この作業を通して、アジアへの地図上の近さを実感させる。と同時に韓国、フィリピンの感覚的遠さにも気付かせる。
展開  35分	深い外国とのかかわり 志賀島 「漢倭奴国王」金印 長崎 オランダ商館、中国人街 対馬 朝鮮通信使 沖縄 中国・東南アジアとの貿易  国際色を強める九州の中心都市 福岡 博多駅 山陽新幹線終点 九州の鉄道の要 博多港 韓国へのフェリー 博多湾流通団地 アジアの国々との貿易 福岡空港 東南アジア便の増加 対馬 韓国漁民との交流	既習事項を質問で思い出させる。 「鎖国」が幕府による中国・朝鮮との交易の独占であったことを気付かせる。  中国・台湾・韓国・フィリピンとの距離的近さが条件としてあることを理解させる。  李ライン時代も漁民レベルでは友好的であった。

	沖縄 米軍基地のフィリピン人 フィリピン、台湾からの出稼ぎ  国際化 《アジアの人々への新たな差別はないか》	なぜフィリピン人が多いのか→アメリカの市民権獲得のためであること。 出稼ぎの背景に、本国での低賃金、円高を指摘。彼（女）らがどんな仕事についているか、考えさせる。
終結 5 分	九州地方がアジア大陸に近いことから 過去・現在ともに近隣諸国との結びつきが強い	現在は経済的な結びつきが強いことをまとめとし、アジアの資源や労働力を利用するだけでは真の国際化とはいえないことを理解させる。

### 5. 高等学校・倫理指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

日時 ○月○日 (○曜日) 第○時限  
 於 高校○年○組教室  
 学年 高校○年○組 ○○名  
 (男子○名、女子○名)

1. 単元 近代日本の思想
2. 指導計画 6時間中の1時間
  - ①西洋近代思想の受容の光と陰  
 ……………福沢諭吉と中江兆民 (本時)
  - ②近代的自我の探求…北村透谷、夏目漱石、森鷗外
  - ③大正デモクラシー…吉野作造、石橋湛山、柳宗悦
  - ④東洋的思想に立つ考え方…西田幾多郎と和辻哲郎
  - ⑤名もなき人びとへの思いと学問  
 ……………柳田国男、宮沢賢治、田中正造
  - ⑥アジア主義と大東亜共栄圏…樽井藤吉、北一輝、大川周明
3. 本時の主題 西洋近代思想の受容の光と陰  
 ……………福沢諭吉と中江兆民
4. 主題について  
 西洋近代の思想については、既に社会契約の思想、合理主義、功利主義について学んでいる。

これらの思想を19世紀中葉欧米に留学して受容してきた福沢諭吉と中江兆民が、自由民権運動、その後の天皇制国家の確立、日清・日露と続く海外侵略等に対してどのように対応し、発言して行ったかを考えることによって、明治知識人の西洋近代思想の受容の仕方を問い直す。歴史学習の成果と関連させながら、特に福沢についての啓蒙思想家としての側面だけでなく、脱亜論以降の国権論者への変節の意味を考えさせたい。

#### 5. 本時の指導

##### (1) 目標

- ①西洋近代の思想とは何かを簡単に復習する。
- ②福沢諭吉と中江兆民の西洋近代の思想の受容の仕方、その変容について考え、思想を学ぶことと生活に生かすことの関わりを考える。
- ③西洋近代の思想の受容の陰の部分、非西洋世界、階級・階層の視点から考える。そのことは大東亜共栄圏思想、侵略戦争をもたらした遠因を考えることにもなる。

##### (2) 準備

- ①教科書『倫理』（一橋出版）
- ②資料集
- ③プリント（「脱亜論」と「三酔人経綸問答」の一部）

(3) 指導過程

段階	指導内容 (板書事項)	指導上の留意点
導入 10分	西洋近代の思想とは 社会契約の思想 合理(性)主義 功利主義 福沢諭吉 (1835-1901) アメリカ イギリスに留学 中江兆民 (1847-1901) フランスに留学	それぞれの思想について、思想家名、簡単な内容を思い出させる。深入りはしない。  福沢は合理主義、功利主義、中江はルソーの社会契約思想、フランス革命の思想、社会主義思想の影響のあったことも指摘する。
展開 35分	(福沢諭吉について) 『学問のすすめ』 天賦人權 民権論 『福翁自伝』 合理主義者 西洋の実学 ↔ 虚学 『脱亜論』 “アジアの固陋を脱して” 脱亜入欧 日清戦争 文明と野蛮の戦争 国権論者へ (中江兆民について) 『民約訳解』 『社会契約論』の漢訳 自由民権運動のハイフル 『一年有半』 民権これ至理なり → 民権論者としての一貫性 『三酔人経綸問答』 洋学紳士 西洋近代思想 絶対平和主義 豪傑君 軍備拡張論 南海先生 “依然としてただ酒を飲む” → 兆民の自己批判	資料集の『学問のすすめ』を読み、人と国の平等を説いていたことを理解させる。 『福翁自伝』については、子供の時のエピソード(御神体を捨てた)などを話す。 プリントの『脱亜論』を読み、福沢の国権論への移行、アジア観をつかませる。韓国での福沢諭吉への批判を考えさせる。  資料集の『民約訳解』を読み、社会契約思想と自由民権運動との関連性を理解させる。  プリントの『三酔人経綸問答』を読み洋学紳士の絶対平和主義の先進性、日本国憲法の戦争放棄の先取り、南海先生にみられる明治知識人の苦悩を説明する。
終結 5分	民権と国権との関わり 西洋中心主義、日本中心主義の限界 アジア・アフリカとの関わり 近隣(朝鮮・中国)との関わり	本時のまとめとして、福沢と中江の国権論への姿勢の違い、アジア観の相違などを理解させる。西欧近代の「個人」概念にも関わる問題でもあり、次回への予告とする。

6. プリント資料

(1) 福沢諭吉「脱亜論」(1885年、明治18)

「……西洋近時の文明がわが日本に入りたるは嘉永の開国を発端として、国民ようやくその採るべきを知り、漸次に活発の気風を催したれども、進歩の道に横わるに古風老成の政府なるものありて、これを如何ともすべからず。政府を保存せんか、文明は決して入るべからず。如何となれば近時の文明は日本の旧套と向立すべからずして、旧套を脱すれば同時に政府もまた廃滅すべければなり。しからはす

なわち文明を防いでその侵入を止めんか、日本国は独立すべからず。如何となれば世界文明の喧嘩繁劇は東洋孤島の独睡を許さざればなり。ここにおいてわが日本の士人は国を重しとし政府を軽しとするの大義に基き、また幸に帝室の神聖尊嚴に依頼して、断じて旧政府を倒して新政府を立て、國中朝野の別なく一切万事西洋近時の文明を採り、ひとり日本の旧套を脱したるのみならず、アジア全洲の中に在って新たに一機軸を出し、主義とするところはただ脱亜の二字に在るのみ。

わが日本の国土はアジアの東辺に在りといえども、その国民の精神はすでにアジアの固陋を脱して西洋の文明に移りたり。しかるにここに不幸なるは近隣に国あり、一を支那といい、一を朝鮮という。この二国の人民も古来アジア流の政教風俗に養われること、わが日本国民に異ならずといえども、その人種の由来を殊にするか、ただしは同様の政教風俗中にいながらも遺伝教育の旨に同じからざるところのものあるか、日支韓三国相對し、支と韓と相似るの状は支韓の日におけるよりも近くして、この二国の者どもは一身につきまた一国に関して改進の道を知らず、交通至便の世の中に文明の事物を聞見せざるにあらざれども、耳目の聞見はもって心を動かすに足らずして、その古風旧慣に恋々するの情は百千年の古に異ならず、この文明日新の活劇場に教育の事を論ずれば儒教主義といい、学校の教育は仁義礼智と称し、一より十に至るまで外見虚飾のみを事として、その実際においては真理原則の知見なきのみか、道德さえ地を払うて殘刻不廉恥を極め、なお傲然として自省の念なき者のごとし。我輩をもってこの二国を視れば、今の文明東漸の風潮に際し、とてもその独立を維持するの道あるべからず。幸にしてその国中に志士の出現して、まず国事開進の手始めとして、大いにその政府を改革することがわが維新のごとき大挙を企て、まず政治を改めて共に人心を一新するがごとき活動あらば格別なれども、もしもしからざるにおいては、今より数年を出でずして亡国となり、その国土は世界文明諸国の分割に帰すべきこと一点の疑いあることなし。」

「……されば今日の謀をなすに、わが国は隣国の開明を待って共にアジアを興すの猶予あるべからず、むしろその伍を脱して西洋の文明国と進退を共にし、その支那朝鮮に接するの法も隣国なるが故にとて特別の会積に及ばず、正に西洋人がこれに接するの風に従って処分すべきのみ。悪友を親しむ者は共に悪名を免かるべからず。われは心においてアジア東方の悪友を謝絶するものなり。」

(2)中江兆民『三酔人経綸問答』より (1987年、明治20年)

### 国防はヤボの骨頂

「ヨーロッパ諸国はすでに自由、平等、博愛の三大原理を知っていながら、民主制を採用しない国が多いのはなぜか。道德の原理に大いに反し、経済の理法に大いにそむいてまで、国家財政をむしばむ数十百万の常備軍をたくわえ、むなしい功名をあらそうために罪のない人民に殺しあいをさせる、それはなぜでしょう。

文明の進歩におくれた一小国が、昂然とアジアの

端っこから立ちあがり、一挙に自由、博愛の境地にとびこみ、要塞を破壊し、大砲を商船にし、兵卒を人民にし、一心に道德の学問をきわめ、工業の技術を研究し、純粹に哲学の子となったあかつきには、文明だとうぬぼれているヨーロッパ諸国の人々は、はたして心に恥じいらぬでいられるでしょうか。もし彼らが頑迷凶悪で、心に恥じいらぬだけでなく、こちらが軍備を撤廃したのにつけこんで、ただけしくも侵略して来たとして、こちらが身に寸鉄を帯びず、一発の弾丸をも持たずに、礼儀ただしく迎えたならば、彼らはいったいどうするでしょうか。劍をふるって風を斬れば、劍がいかに鋭くても、ふうわりとした風はどうにもならない。私たちは風になろうではありませんか。」

「そもそも豪傑君のいわゆる、アフリカかアジアのさる大国というのが、どこを指すのか、私にはもちろんわかりません。しかし、もしその大きな国というのがアジアにあるとしたならば、たがいに同盟して兄弟国となり、すわというときにはたがいに援けあう、そうすることによって、それぞれ自国の危機を脱すべきです。やたらと武器を取って、かるがるしく隣国も挑発して敵にまわし、罪もない人民の命を弾丸的にするなどというのは、まったくの下策です。

たとえば、中国などは、その風俗、風習から言っても、その文物、品格から言っても、また地理的に言っても、アジアの小国としてはいつもこれと友好関係をあつく、強くすべきで、たがいに恨みをおしつけあうことのないよう、努力すべきです。わが国がいよいよ特産物を増し、物資を豊かにするならば、国土が広く、人民のいっばいいる中国こそ、われわれの大きな市場であって、尽きることなく湧く利益の源泉です。この点を考えずに、ただ一時的に国威発揚などという考えにとりつかれて、ささいな言葉のゆき違いを口実にして、むやみに争いをあおりたてるのは、ほくから見れば、まったくとんでもないゆき方です。」